



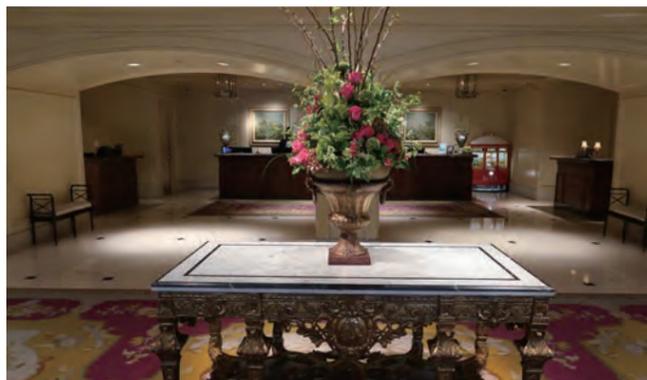
ザ・リッツ・カールトン ニューオーリンズ「The Ritz-Carlton, New Orleans」は、市内目抜き通りのキャナル・ストリートに白亜の威風堂々とした外観で行んでいる。歴史的な地区であるフレンチ・クォーターも徒歩圏内という恵まれた立地にあり、AAAのFive Diamondを獲得した地元屈指の名門ホテルである



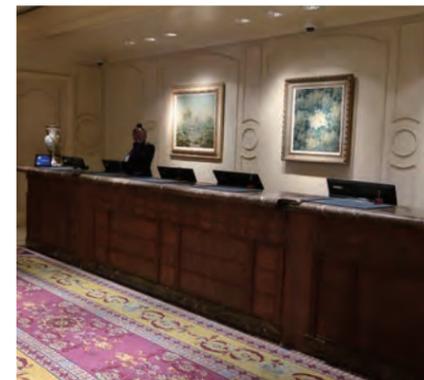
ゴージャスなロビーラウンジ。白を基調としたエレガントな雰囲気と気品あふれる高級感を醸し出している



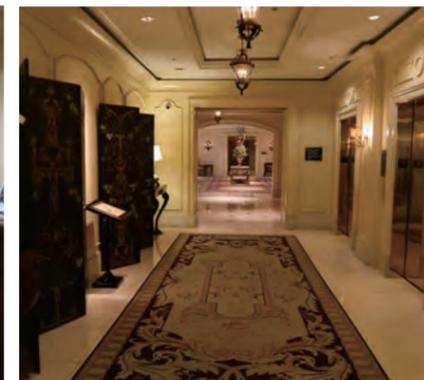
アメリカ南部の名門デパート「Maison Blanche」の建物をホテルに改修したもので、1908年に再建された歴史を感じさせる白亜の外観はニューオーリンズのランドマークである



レセプションデスク前の優美なエントランスホール



重厚なレセプションデスク



東洋趣味が感じられるエレベーターホール

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエグゼクティブが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままに撮ってきた写真を掲載する。

### Williamsburg Inn

ザ・リッツ・カールトン ニューオーリンズ「The Ritz-Carlton, New Orleans」(以下、RC/NO)は、市内目抜き通りのキャナル・ストリートに白亜の威風堂々とした外観で行んでいる。歴史的な地区であるフレンチ・クォーターも徒歩圏内という恵まれた立地にある。AAAのFive Diamondを獲得した地元屈指の名門ホテルで、目の前のキャナル・ストリー



筆者 **小原 康裕**  
国際ホテルジャーナリスト

慶応義塾大学法学部法律学科卒。  
1974年 Munich Re 入社。  
2001年 投資顧問会社原健設立、  
代表取締役 CEO。  
JHRC、日本ホテルレストランコンサルタント  
協会理事。

[www.jhrca.com/worldhotel/?cat42](http://www.jhrca.com/worldhotel/?cat42)  
<https://www.facebook.com/yasuhiro.obara.16>

現在、筆者のホームページで  
「世界のリーディングホテル」を連載中。  
多くの美しい写真と興味深いコメントで、  
世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。



ニューオーリンズはテネシー・ウィリアムズの戯曲を映画化した「欲望という名の電車」の舞台となった街で、目の前のキャナル・ストリートに旧式の路面電車が今も現役でゴトゴト走っている



アフタヌーンティーが人気のラウンジ「Davenport Lounge」のコーナー



ホテル中心部には樹木の繁ったコートヤードがあり、周囲の喧騒を和らげている



クラブラウンジ「Maison Orleans Club Lounge」の重厚なライブラリー。クラブフロアはそれぞれ違う雰囲気を持つ3部屋のラウンジを持ち、定番のリッツカールトンスタイルに南部ルイジアナの空気も加味している



クラブラウンジ「Maison Orleans Club Lounge」の中心に位置するダイニングルーム



ブレックファストには専任のシェフがオムレツなど多彩な料理を提供する



Davenport Lounge は本場ニューオーリンズのジャズセッションを食事と共にライブで堪能でき、著名なトランペット奏者でシンガーである Jeremy Davenport の生演奏は人気を博している



ラウンジ「Davenport Lounge」に付属したバーカウンター



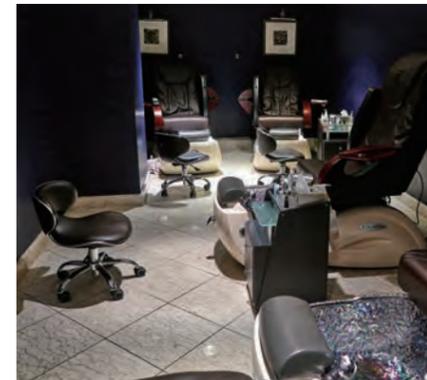
スイートルーム「Club Executive Suite」のベッドルーム。専用ラウンジ「Maison Orleans Club Lounge」のアクセスが付いたスイートで利便性が極めて高い



落ち着いた雰囲気の気品あるベッドルーム



フランスのエッセンスが感じられるリビングルーム



スパ施設にあるビューティーサロン。実に22のトリートメントルームを擁し、100以上のスパメニューを誇る



小規模ながら充実したスイミングプール

トに旧式の路面電車が今も現役でゴトゴト走っている姿が実に面白い。アメリカ南部の名門デパート「Maison Blanche」の建物をホテルに改修したもので、1908年に再建された歴史を感じさせる白亜の外観はニューオーリンズのランドマークである。

ジャズと往年の名画「欲望という名の電車」の舞台であるニューオーリンズの起源は、フランスの植民地であった18世紀初頭にまで遡る。その支配権は初期のスペインからフランスへと移ったが、1803年に歴史で有名な「ルイジアナ購入」の一環としてナポレオンからアメリカ合衆国に売却された。今日のニューオーリンズは、2005年に街を襲ったハリケーン・カトリーナからの復興途中にあり、名物のケイジャン&クレオール料理も健在だ。また、テネシー・ウィリアムズの戯曲を映画化した「欲望という名の電車」の舞台となった街で、“欲望”「Desire」、「極楽」「Elysian Fields」といった名前の通りが実際に存在する。

RC/NOの開業は2000年で、37のスイート、74のクラブルームを合わせて、全527室を擁す大規模なホテルである。今回は「Club Executive Suite」を紹介したい。専用ラウンジ「Maison Orleans Club Lounge」のアクセスが付いたスイートで利便性が極めて高い。クラブフロアはそれぞれ違う雰囲気を持つ3部屋のラウンジを持ち、定番のリッツカールトンスタイルに南部ルイジアナの空気も加味している。オールデイダイニング「M Bistro」は伝統的なニューオーリンズ料理を楽しめる。スパ施設「The Ritz-Carlton Spa, New Orleans」は、実に22のトリートメントルームを擁し、100以上のスパメニュー、カフェサロン、ジム、プールなど地区最大の評価を誇る。

RC/NOの中心部には樹木の繁ったコートヤードがあり、周囲の喧騒を和らげている。「M Bistro」に接してラウンジ「Davenport Lounge」があり、著名なトランペット奏者でシンガーである Jeremy Davenport の夕刻から始まる生演奏は人気を博している。本場ニューオーリンズのジャズセッションを食事と共にライブで堪能でき、是非お勧めしたい。また翌日は、市内を走る“欲望という名の電車”を体験するのも一興である。